

4 平成 30 年度 我が校の学ぶ力向上策【甲南中部小学校】

1. 本校の学力向上に関わる課題

(全国学力・学習状況調査および本校の分析より)

○国語科

- ・言語事項に比べ、聞く話すこと読むこと書くことに課題がある。特に、文章の内容を整理しながら読み取る力が弱い。
- ・必要な情報を取り出したり、情報を基に目的や意図に応じて自分の考えをまとめたりすることが苦手である。

○算数科

- ・資料の読み取りや活用の力や図形に関する理解に課題がある。
- ・既習事項を活用したり、文章から必要な情報を読み取ったりして、筋道立てて考え、判断理由を式や言葉で表現・説明する力に課題がある。

<学習状況>

- ・読書の時間が少ない。
- ・自分の考えをまとめたり、発表したりすることが苦手な傾向にある。
- ・学習したことを生活と結びつけて考えたり、生活に生かそうとしたりすることに課題がある。

2. 改善の状況

- ・予習の取組により、意欲的に学習に取り組もうとする姿勢がみられるようになった。
- ・授業のスタンダード(めじとまよ)の実践により、自分の考えを持つことや友だちと意見交流することが定着しつつある。
- ・思考をはたらかせるためのノート指導が定着してきた。
- ・言語活動を通して学び合う授業づくりが進み、子どもたちが根拠を明らかにしながら学び合う学習の力が少しずつ育ってきた。

3. 学ぶ力向上へのアプローチ

(1) しっかり聞き合い伝え合う授業づくり

(校内研究)

- ・授業に言語活動を効果的に取り入れることにより、人の話を聞き、自分の考えを持ち、互いに伝え合う力を育む。
- ・特別支援教育の視点を大切にしたユニバーサルデザインの授業の創造
- ・思考を働かせ、つなげるためのコーディネートと思考の見える化(ノート、プリント、黒板、ICT器機、ホワイトボード等)
- ・聞き合い伝え合うための話型の工夫と活用
- ・思考力と表現力を高めることができるノートづくりの工夫
- ・言語に関する基礎的基本的な力の習得とその活用
- ・主体的な学習態度の育成と学習習慣の確立
- ・家庭学習(予習)を生かす授業づくり
- ・めざす子どもの姿を明確にした授業展開のスタンダード化
- ・評価問題を工夫し、表現の機会を増やす。
- ・安心して表現できる学級づくり(人権教育、生徒指導の視点を生かした授業づくり)

(3) 家庭と学校の連携

- ・自主学習への支援
「ふり返ってゲー」カードの活用
学びのススメによる指導と家庭との連携
- ・家庭での読書のすすめ
(育友会との連携による家庭読書の日)
- ・家庭への働きかけ
<家庭学習の目安>
1・2年〔30分〕 3・4年〔45分〕
5・6年〔60分〕

(2) 読書活動推進と言語活動の充実

- ・言語活動タイムの定着と内容の工夫
- ・学習環境の整備
「ことばとあそぼコーナー」「ことのは通り」「あつまれことば」
- ・読書活動の充実
朝読書 読み聞かせ 全校読書
家庭読書の充実 読書環境整備
学校司書との連携
*「中部っこ学びのルール」の定着

4. 今年度の指導目標

- ・校内研究の取組により、しっかり聞く力を育てるとともに、それを元に自分の考えを持ち、互いに伝え合う学習の力を育てる。
- ・気づきを促し、気づきを生かした授業や活動の工夫を図る。
- ・学ぶ力アンケートの実施と「振り返ってゲー」カードの活用で、児童自身が自己の良さやがんばり、課題等を把握することで、自ら考え、進んで表現しようとする意欲の向上を図る。
- ・学習規律を徹底させる。(中部っ子学びのルール)

5. 学力向上策の評価・検証・見直し策定期

- ・児童・保護者アンケート、「学校評価」および標準テスト等の活用
- ・校内研究会、学びづくり部会(月1回)、校内研修会でそれぞれの取り組みの検証を行う。
- ・第2回学校評価アンケート実施後に、見直しを行い改善策を策定する。